

令和6年度(2024年度)セタシジミ資源概況調査

孝橋賢一・久米弘人

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回るまでに激減している。そこで本資源の現状を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業を推進するため、産卵期にあたる5~7月に漁場ごとの本種生息密度を調査した。

2. 方法

2024年6月12日および13日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む15漁場(針江漁場はR6より休止)において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網(開口幅167cm、目合約3cm)を用いて調査した。曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返して、それぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。なお結果の集計に当たっては、全て殻長14mm以上のものを対象とし、解析に供した。曳網面積の推定にあつては、昨年同様、漁具に取り付けたボイスレコーダーの解析によった¹⁾。

3. 結果

セタシジミの全漁場の平均生息密度は、0.66個体/m²(漁獲率(0.5と仮定)と昨年度の0.83個体/m²より減少した(表)。

また主要7漁場の生息密度の平均は前年0.80個体/m²から0.70個体/m²に減少した。漁場別の生息密度は、湖北部の長浜、今西では0.26~0.34個体/m²と低かったが、湖東部の沖島東、沖島西、牧および松原の漁場では0.81~1.55個体/m²と高くなった(表)。サイズ別では、漁獲対象である殻長18mm以上の生息密度が平均0.27個体/m²とほぼ変動がなかったのに対し、殻長14mm~18mmは0.51個体/m²から0.42個体/m²に減少した(図2)。

表 2024年の禁漁期における*漁場別生息密度

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m ²)	平均生息密度(個/m ²)	標準偏差
東岸				
今西	3	198	0.26	0.02
長浜	3	681	0.34	0.06
磯	3	245	0.52	0.06
松原	3	414	1.40	0.14
石寺	3	613	0.12	0.01
新海	3	313	0.33	0.08
沖島東	3	168	0.81	0.50
沖島西	3	706	1.30	0.16
沖島南西	3	561	0.24	0.02
牧	3	146	1.55	0.22
菖蒲	3	242	0.42	0.12
西岸				
海津	3	132	0.43	0.20
鴨川	3	215	0.54	0.10
高島	3	191	0.91	0.11
近江舞子	3	206	0.72	0.13
平均			0.66	
主要漁場			0.70	

:ゴシック体は主要漁場,:漁獲率(0.5)と仮定した

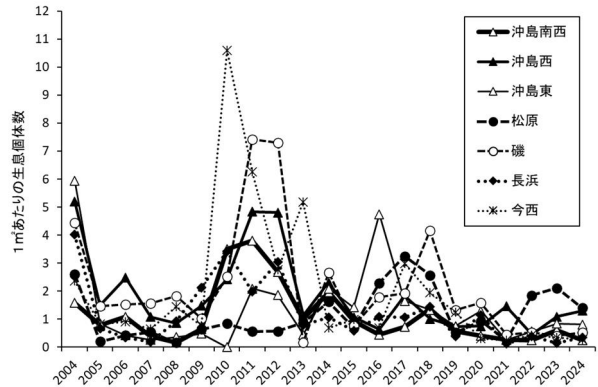


図1 各主要漁場における生息密度の推移

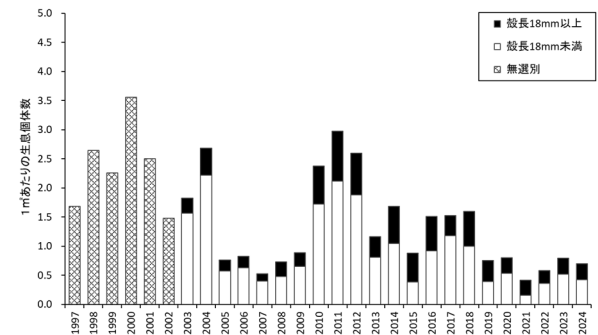


図2 主要漁場における平均生息密度とサイズ別内訳

引用文献: 1)井戸本純一(2021): 音響ログを用いた貝桁網曳網面積推定制度の向上(令和3年度滋賀県水産試験場事業報告) 本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。